

議事	方向性	発言要旨		発言者	課題	解決に向けた委員からの提案	提言への反映状況
【施策 1】 日本の食を支える農業を実現する	産地を支える担い手の確保・育成	第1回	農業を始めたいという人は増加傾向にあることから、しっかりと実際の就農につなげていく必要がある。	堀井直子委員	着実な就農への誘導	就農研修の充実 マッチング強化	農一提言 1
		第2回	共通課題として、冬期の仕事の安定性や生産性の確保が挙げられる。年間を通じた仕事があれば雇用につながらない。冬期の仕事の確保が一番重要。	堀井直子委員	通年での安定雇用	冬期の仕事の確保	農一提言 1 林一提言 1 漁一提言 1 耕一提言 3
		第2回	漁業も同様。冬の間加工し販売できる仕組みを確立させることが経営の安定につながる。	佐藤亘委員	通年での安定雇用	冬期間に加工・販売できる仕組みの構築すべき。	漁一提言 3 耕一提言 3
		第2回	地域の他の農家は、冬場に除雪、肥料散布、比内地鶏の管理、上水道の管理などを組み合わせて対応している。人手と仕事は「鶏と卵」の関係。人口減少が進む中、外部からの労働力を確保し、定住してもらう取組が重要。	三浦部会長	通年での安定雇用	冬期の仕事の確保 外部から労働力確保 定住対策	耕一提言 3
	需要に応じた米生産	第2回	去年は米価の上昇もあり活気があったが、今年に入り値段が安くなってきている。消費者としてはありがたいが、労働力をかけている農家は大変だと思う。今後は個人ではなく集団での大規模化が進んでいくものと考えている。	堀井直子委員	低コスト生産	稲作の大規模化	農一提言 2
		第2回	米の価格が下がっており、農家の友人も困惑している。需要と供給のバランスをうまく取る流通が重要。	佐藤亘委員	米価への対応	需要と供給のバランスを取る流通	農一提言 2
		第2回	需要の獲得が重要。秋田のお米を必要としてくれる実需者がどの程度いるか、県や市が主体となってヒアリングやマーケティングを行い、具体的な総量を出してやる必要がある。	三浦部会長	需要の獲得	県や市が主体となってヒアリングやマーケティングを実施し、需要の総量を把握してはどうか。	農一提言 2
	収益性の高い複合型生産構造の確立	第1回	生産者が安心して生産、販売に取り組めるよう、比内地鶏の安定した供給体制の確保が必要。	三浦部会長	雛の安定供給	供給体制の構築	農一提言 2 (個別案件)
		第2回	生産拡大には安定的な担い手が不可欠なため、施策 1 の担い手確保の取組と結びつけて推進するべき。	三浦部会長	担い手の確保	施策 1 の担い手確保と生産拡大をセットにして推進	農一提言 1 農一提言 2
		第2回	比内地鶏については、雛の供給元、生産者（飼育）、処理場（屠殺・加工）の連携が不安定だと生産拡大できない。前回、ブランド認証協議会と検討を進めるとの話があったが、どのように進んでいるのか時系列を示してほしい。	三浦部会長	雛の安定供給	供給体制の構築	農一提言 2 (個別案件)
	農畜産物の付加価値の向上と販路拡大	第1回	輸出額を増やす取組は非常に重要。米について、多収品種の引き合いが強いので考慮すべき。また、海外への販売は成果がでるまで複数年かかることから、継続性をもって事業を進めるべき。	伊藤晋宏委員	輸出先ニーズへの対応 取組の継続性	多収品種の作付拡大 中長期的戦略	農一提言 3
		第2回	ブランド化を進め、販路拡大につなげるマーケティングの取組が必要。秋田牛や由利牛は非常に美味しいが、他県と比較してパッケージや売り方、アピールの柔軟性が負けている。目の引くようなパッケージ作りが必要。	堀井直子委員	パッケージや売り込みが弱い	ブランド化、マーケティングの強化	農一提言 2
		第2回	トマトやきゅうりなどの園芸品目は打ち出しが弱い。「あきたこまち」のようにしっかりとブランディングし、比内地鶏や秋田牛に並ぶ品目としていくべき。	佐藤亘委員	売り込みが弱い	ブランド化、マーケティングの強化	農一提言 2
		第2回	えだまめやトマトは首都圏等での評価が高いが、県内の人（特に子供たち）が知らない。外貨を稼ぐための首都圏発信と同時に、県内での食育や地産地消を進める複合的な取組が必要。他県のように県や市の SNS で旬の野菜や美味しい食べ方、お店の情報を QRコード等で発信・周知する仕組みがあると良い。	三浦部会長	県内知名度の低さ	県内での食育と地産地消の推進 情報発信・周知する仕組みの構築	農一提言 2
		第2回	ブランド化を進めた上で、積極的に売り込んでいく必要あり。	堀井直子委員	販路拡大	ブランド化、マーケティングの強化	農一提言 3
		第2回	輸出拡大には量が必要なため、人材確保やスマート農業による生産性の向上が不可欠。ブランディングを含め、全ての施策が関わってくる。	佐藤亘委員	輸出向けロットの拡大	人材確保、スマート農業化による生産性の向上	農一提言 3
		第2回	輸出は価格差や品質管理、宗教的問題などにより、単独での取組は非常に難しい。輸出特化企業や JA（全農インターナショナル等）との連携が重要。県内で輸出に取り組む大手企業の情報がもっと身近にあると良い。	三浦部会長	企業や全農との連携強化	情報共有・連携体制の構築	農一提言 3

議事	方向性	発言要旨		発言者	課題	解決に向けた委員からの提案	提言への反映状況
【施策2】 森の恵みを未来へつなぐ林業・木材産業を実現する	林業を支える人材の確保・育成	第1回	外国人労働力の活用に当たり、手続きが煩雑で難しいことから支援が必要ではないか。外国人女性へのサポートも重視していく必要がある。	堀井直子委員	外国人労働者の活用	外国人労働者へのサポート 女性活躍に向けた環境整備	林一提言 1
		第2回	人材不足の課題は昔と変わらず、3年で6割しか残らないなどの定着率の低さ。やはり冬期の仕事の確保が重要。 冬期の仕事対策のため、公共事業などの工期を夏から冬へスライドさせることも含め検討すべき。 工期を長く（10月頃等まで）取り、冬に向けてずらせば冬期の仕事確保と暑さ対策の両面で良い。	堀井直子委員	定着率の低さ	冬期の仕事の確保 公共事業の工期スライド	林一提言 1
		第2回	即戦力となる外国人労働者の活用も重要。日本語が読めない書けないため、チェンソーなどの資格取得（漢字の試験など）の壁があるとすれば、組合や県がサポートする仕組みを作ってはどうか。	三浦部会長	外国人労働者の活用	資格取得等のサポート体制の構築	林一提言 1
	脱炭素に貢献する再造林の拡大	第2回	機械化やエリートツリーの活用による苗木供給が進んでいる。穴掘り機が電動化し、女性でも使いやすくなっている。現場（傾斜30度など）で本当に機械が使えるかという実用性の課題はある。 苗木の運搬で既にドローンを使っている（中継地点が必要で2人体制）。運搬専門業者に頼むと1日40万円ほどかかり、費用が非常に高い点が課題。	堀井直子委員	更なる低コスト化・省力化	高性能作業機械の性能をフルに発揮できる環境整備 ドローンの積極活用	林一提言 2
		第2回	見回りや苗木の運搬にドローンを使えば省力化できるのではないかな。	佐藤亘委員	更なる省力化	ドローンの積極活用	林一提言 2
	生産・供給体制の強化と県産材の販路拡大	第2回	販路拡大に向けたPRや、県産材をより使ってもらうための横のつながり、発信力が重要。	三浦部会長	販路の拡大 林業の成長産業化 発信力の強化	県産材の魅力訴求 連携強化による価値創造 情報発信	林一提言 3
【施策3】 環境変化に対応した新たな水産業を実現する	漁業を支える人材の確保・育成	第2回	水産業においても年間を通した仕事の確保が重要。 温暖化で水質が変わりハタハタも減少する中、秋田ならではの養殖の推進を期待。	堀井直子委員	経営の安定	冬期の仕事の確保	漁一提言 1 漁一提言 2 漁一提言 3
	つくり育てる漁業の推進	第1回	養殖は様々な沿岸地域で取組が可能であることから、積極的に進めるべき。作業は漁師でなくともできる簡単な作業。女性でも作業可能であり、幅広く推進していく必要がある。	佐藤亘委員	蓄養殖ノウハウの早期確立	畜養殖の推進	漁一提言 1 漁一提言 2
		第2回	牡蠣の養殖に取り組んでおり、1粒1～3円の稚貝が高値（200円など）で売れ、非常に付加価値が高い。養殖ノウハウの早期マニュアル化が進めば増産も可能。 水田でのエビ養殖や、山水を利用したニジマス・サーモンなどの「陸上養殖」も検討してはどうか。 力仕事が少ない、冬場も港内などの穏やかな場所で回収・出荷できるため、女性も働くことができ、冬期間の安定収入につながる。	佐藤亘委員	蓄養殖ノウハウの早期確立	陸上養殖の推進	漁一提言 1 漁一提言 2
		第2回	農林漁業を組み合わせ、冬は水産養殖、夏はそれぞれの専門分野（農業・林業）に出るような、地域一体となった複合的な働き方のモデル（絵）が描ければ非常に魅力的であり、農村漁村の活性化につながるのではないかな。	三浦部会長	交流の場の創出	地域一体となった複合的な働き方モデルの推進	耕一提言 3
【施策4】 活力あふれる明るい農山漁村を実現する	次世代につなぐ持続可能な農山漁村の形成	第1回	高齢化が進んだ地域に漁業、農業、林業のプロが手助けする仕組みが必要ではないか。観光とコラボレーションするプロジェクトやイベント等を実施してはどうか。	佐藤亘委員	活性化人材の不足 異業種との連携	ノウハウを提供・サポートする仕組み	耕一提言 2
		第2回	高齢者（祖父母）と子供（孫）をターゲットにしたイベント等を通じて、農林漁業の楽しさやワクワク感を次の世代に伝える視点が必要。	堀井直子委員	農林漁業の魅力の伝え方	ターゲット、視点の切り替え	耕一提言 2
		第2回	「AKITARISE」を受講するようなやる気のある起業家に対し、既存の一次事業者が土地やノウハウを3者（農・林・水）で連携して提供・サポートする仕組みがあれば、継続的な事業化と産出額の増加につながる。	三浦部会長	オンリーワンビジネスの創出	ノウハウを提供・サポートする仕組み	耕一提言 2
		第1回 第2回	既存の集まり単位を、今後の取組の核としていくことも重要。 単独の産業ではなく、農業・林業・水産業が地域で組み合わせることが、これからの「オンリーワンビジネス」や「農村RM0」の形成につながる。	三浦部会長	農村RM0等の形成	農業・林業・水産業を組み合わせた取組の推進	耕一提言 2 耕一提言 3
	農山漁村ならではの多様なビジネスの創出	第2回	山水を利用したサーモンの「管理釣り場（釣り堀）」ビジネスを検討してはどうか。冬でも雪の中で釣りができ、餌やりだけで力仕事も少ない。 水田のエビ、山のサーモンなど、冬にやるのがあって楽しいビジネスを進めてはどうか。	佐藤亘委員	オンリーワンビジネスの創出	陸上養殖と組み合わせた新たなビジネスの推進	耕一提言 2 耕一提言 3
	他の専門部会からの提案	第2回	クマ肉処理の環境を整備し、秋田に行けばクマが食べられるといったポジティブなイメージに変えていく必要がある。	環境・くらし部会	捕獲したクマの有効活用	クマ肉処理の環境整備	耕一提言 3